

小テスト講評（6月18日実施）

問題：ナトゥーフ期から先土器時代にかけてレヴァント地方における経済生活の変化について論じなさい。

講評：解答は三つの時期、ナトゥーフ期と先土器新石器時代A及び先土器新石器時代Bに分けて論じることが期待されている。

ナトゥーフ期に関しては狩猟採取経済を基本とし、北部イラクやシリア東部の広範な地域に人々は拡散していたことなどに触れておく必要がある。先土器新石器時代Aに関しては気候変動の結果人々はヨルダン川渓谷などの狭い地域に集まるようになり、集落を形成する。狩猟採取経済が続いていたが、末期には農業の始まりを窺わせる現象が生じていた。先土器新石器時代Bに関しては集落の規模が大規模化し、住居も方形のパターンを取るようになる。イネ科植物やマメ科植物の栽培が広く行われるようになり、その末期には動物の家畜化も行われ、牧畜が浸透していった。

多くの解答が先土器新石器時代AとBの区分をしておらず、漠然とナトゥーフ期の狩猟採取経済から新石器時代の農耕牧畜経済へと移行していったと述べるにとどまっていた。中にはメソポタミアの灌漑農法と集団労働組織について論じているのもあったが、これは問題の問いに対する答えになっていない。

かなりの答案がアブ・フレイラなどのデータに言及し、ナトゥーフ期と先土器新石器時代Bの遺跡から出土する植物種子の品種の違いに言及し、ナトゥーフ期には数多くの種類の野生種の種子が出土しているのに対して、先土器新石器時代B期の遺構からは少数の種類の栽培種の種子が多数出土していることを指摘していた。またそれ程の数ではなかったが遺跡から出土している動物の骨の変化について触れているものもあった。ナトゥーフ期にはガゼルの骨が多く出土し、ガゼル以外の動物の骨も野生種の動物の骨が広い品種にわたって出土していることが指摘されていた。それと比較する形で先土器新石器時代になるとガゼルの骨は減少し、羊の骨が数多く出土するようになることに注目する解答も見られた。

配点：この小テストの配点は25点を満点としている。